

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 憩いの園 )

事業所番号	O672200177		
法人名	社会福祉法人悠愛会		
事業所名	グループホームメルヘン		
所在地	東村山郡山辺町大字大寺1132番5号		
自己評価作成日	平成 28年 8月 31日	開設年月日	平成 12年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・楽しく・一緒に」の理念のもと、残存機能を有効に活用し、その人らしい生活が送れるよう努めています。施設東側に畑があり、様々な野菜を育てており、心を込めて育てた野菜を食事の際に提供し、収穫の喜びを皆様に分かち合っています。コミュニケーションが苦手な方でも、スタッフが寄り添い、笑顔で傾聴し安心感のある生活をサポートしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/O6/index.php>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 9月 28日	評価結果決定日	平成 28年 10月 18日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

6ユニットそれぞれの利用者は趣味や特技を活かし、窓際に植物等を育て、壁には皆で作った作品を展示して明るい環境の中で楽しんでいます。また長い廊下の突き当りには鳥居のマークを貼り参拝して折り返し歩行運動する等工夫したり、更に浴室入り口には、温泉地名を貼り温泉へ入るイメージづくりをして気分を盛り上げています。職員一人ひとりとは上半期と下半期に利用者に関わるための目標を立て、その目指した目標が実践できたかどうか進捗状況から結果までを検証し反省しながら、利用者(ゲスト)の笑顔が見られるよう、レベル向上に励んでいる事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 外 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、ユニットの見えるところに掲げている。	職員は、業務に就く前に6ユニットそれぞれに掲示している「ゆっくり・楽しく・一緒に」の理念と各ユニットの月毎の目標を毎日確認している。一つの家として、せかせかせかないで裏方さんに徹し、寄り添いながら一緒に生活できるよう実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域のスーパーを利用している。また、地域の催しごと(さくら祭り、敬老会等)へ参加し、交流を図れるよう努めている。	運営推進会議の地域代表者から情報も得て、さくら祭りや敬老会へ積極的に参加して地域住民との交流を図っている。また歌や踊りのボランティアや子供たちとの交流で利用者は喜び楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーへの買い物や、地域の催しごとの参加を通じて理解を得るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行っている。町役場、大寺地区の公民館長・地域住民代表の方々に参加して頂いている。定期的に各ユニットを回り、それぞれのユニットの雰囲気や味わってもらい、活動における助言をいただいている。	運営推進会議の委員から、家族との行事の時や面会に来られない方への情報はどうしているか質問や意見をもらい、その意見をサービスの質向上に反映させている。また会議内容など議事録を職員へ配布し、連絡ノートで押印確認をして共有を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや、運営推進会議等に参加していただいている。町からも行政等の報告をもらっている。	町の担当者は、運営推進会議のメンバーになっていて、報告や指導を得ながら事業所の考え方や実態を知ってもらい情報を共有している。また町からの紹介で入居されてくる利用者もおり、常に連携を密にしている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>施設内での学習会を通じて、身体拘束について学習を行っている。入居者の状態に合わせて離床センサー等を活用し、拘束をしないケアを行っている。</p>	<p>身体拘束について学習会の中で法人倫理規定に基づいて実施している。また接遇研修は外部へ派遣して、利用者へのケア向上に活かしている。サービス内容に、散歩・買い物等の外出の機会を増やし、家族の協力も得ながら心の安心に繋いでいる。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>毎年、虐待防止についての学習会を開催し、職員全員が同じ意識でケアできるよう話し合い、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度についての知識を増やせるよう、学習会を通じて学んでいきたい。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際に、利用者やご家族と十分な話し合いを行い、理解納得された状態で入居されている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談の窓口を設けている。家族会などで集まった際には意見や要望を聞くようにしている。また、苦情があった際には、管理者・職員でしっかり話し合いを行い、改善に努めている。</p>	<p>敬老会行事を利用して、利用者・家族等からアンケートを取り、来られない家族には郵送や電話で意見や確認を行っている。聞き取り困難な利用者は、家族状況・前施設・ケアマネジャーから情報をもらい意見の反映に繋げている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのスタッフミーティングや業務中に出た意見や提案を主任会議で話し合い繁荣されるよう努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを活用し、年2回主任と面接を行い、一人ひとりが向上心を持って勤務できるよう努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の学習会や、外部の研修に参加し、知識や技術向上を目指している。	毎月1回の学習会は、職員の割り当て制にして講師を務め、本人の勉強にもなっている。各種資格取得時には、実技指導や勤務体制の調整協力等で職員を育てる取組みを行っている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部の研修にはできる限り参加している。他施設との交流を図り、ケアの質の向上に取り組んでいきたい。	県グループホーム連絡協議会に参加し、内容・雰囲気等で福祉を担う同業者としての責任感が出てきている。交流を通じて一緒に学び職員の気づきや変化等、より良い方向へと結びつき、自信に繋がってきている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前訪問や面談をし、不安や心配事、要望を聞き適切な対応と信頼関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前訪問面談で、御家族の要望や思いを聞き、相談しやすい関係作りをしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と御家族の要望や状態を把握し、本人の状態に応じて、適切なサービスを提供している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合わせた生活リズムを大切にし、利用者が出来ることは行っていただき、出来ないことはサポートしている。家庭的な環境、雰囲気作りを行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、日常生活の様子を報告し、家族との情報を共有し、協力を得ながら利用者の支援を行っている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族の協力も得ながら、馴染みの関係が途切れないように努めている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、声掛けをしながら孤立しないように支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に相談を受けることは少なくなっているが、必要に応じて相談があれば対応している。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する際、気持ちシートを記入することで、思いや暮らし方の希望など把握するように努めている。困難な方の場合、表情や態度などから思いを受け止める努力をしている。	利用者の思いや希望を、気持ちシートに似顔絵や体形図などを記入し、ケアチェック要約票を用い把握している。また生活歴一覧として年代毎に区分けし、分かる範囲で具体的に記入してもらい、その人のあゆみを理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、御家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入居後の生活に活かしている。入居後も回想法などを通じて情報を得たり、興味を持つ話題を提供し、これまでの暮らしの様子などを聞く機会を作っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察や会話を通じて、その人の状態を把握し、病気の早期発見や認知症の進行状況の把握にも努めている。また、毎日の花笠体操・歩行練習・立ち上がり訓練など筋力保持のため、楽しみながら行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活や会話の中から現状を把握し、3ヶ月毎ケアプランの見直し、更新のカンファレンスを行っている。御家族に作成したケアプランを説明し、その都度同意を得ている。	プラン作成にあたり、ちょっとした様子や気づきを連絡ノートや業務日誌に記録している。ケアプランの見直しは職員全員による会議を行い、家族等との面会時や遠方の家族等とは電話で確認してから、利用者本意の介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきを大切にして介護記録を記入している。各自の認知症の状況も記録し、職員全員で把握し、介護計画に活かしている。		
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元住民や、消防団の方々に協力を得ている。地域の行事に参加し交流を深め、安心して生活できるよう支援している。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックがあり、早期受診に努めている。受診後は、御家族へ報告を行っている。要望があれば、他医療機関で受診していただいている。	入居者の多くが隣接する法人クリニックをかかりつけ医とし、定期健診や急変時の対応など協力関係が構築され、利用者・家族等・職員の安心に繋がっている。皮膚科などの専門科受診は家族対応で行われ、結果は互いに情報の共有を図り、職員は誤薬防止と健康管理に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、支援を受けている。週1回の訪問で、入居者の健康状態の把握に努めている。急変があれば、看護師へ報告し、緊急時対応を行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関や御家族と連絡を取り、情報交換や相談に努めている。入院した際は1週間ごとに状態確認を行い、病院関係者と情報交換し、早期退院に向けた連携を図っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入居時に御家族から方針を聞き取りしている。重度の利用者については早期から医師や家族との話し合いの機会を持ち、今後の変化に備えて検討し、チームで支援に取り組んでいる。	終末期に向けては入居時に家族等の意向を確認している。法人の医師や看護師の協力が得られることから看取りの要望にも応えたいとしている。また日々の状態変化等については話し合いを継続し、場合によっては他施設に移ることも検討している。	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な学習会にて実践形式の学習に取り組んでいる。心肺蘇生法とAEDの使い方は赤十字の講師を招いて学んでいる。また、看護師より酸素などの器具を使用する場合の使い方について学び、迅速に対応できるよう努めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全委員会を中心に定期的に招集訓練や避難誘導訓練を行っている。各ユニットごと、防災袋と情報カードをまとめてあり、防災に対する意識を高めている。地域の消防団の協力も得ている。	法人全体で年2回の避難訓練を地元消防団参加のもと実施している。事業所独自では夜間想定避難と通報訓練を行い、反省点を明らかにし冷静な行動が出来るよう取り組んでいる。また利用者一人ひとりの身体・服薬状況等に顔写真を添えた情報カードを防災袋に準備し、非常災害に備えている。	近年異常気象による災害が多発していることから避難誘導には様々な視点からの取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が人格を尊重することを心掛け、プライバシーを損なわない言葉掛けを意識して対応している。プライバシーについては学習会にて学んでいる。	利用者へのなにげない声掛けや言葉遣いは尊厳を傷つけないよう注意している。写真の掲示や面会者については本人・家族の意向を把握しプライバシーに配慮している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	気持ちシートを利用し、思いや希望を話せる雰囲気作りと、1対1になる場面での傾聴。自己決定できるように、問いかけや気持ちを感じとるようにしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや体調、その人のペースを大切に、利用者それぞれの希望に応じた支援ができるよう職員間でもコミュニケーションを図り、希望に沿えるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをし、身だしなみに気をつけ、自分の好みの服や小物等、希望を取り入れている。外出やイベント時など化粧をしておしゃれを楽しんでいる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし、職員と共に調理を行い、食器の後片付けも行っている。季節に応じた献立を考えたり、利用者の希望の献立を調理し、職員も一緒に食べている。手作り弁当を持参し外出イベントも行っている。	普段は外注の食材でユニット毎に調理している。「希望メニューの日」を月数回設け、利用者が育てた野菜など使い笑顔が見られている。誕生会は利用者が生まれた日に実施し、好きなものや食べたいものをリクエストして皆でお祝いをしている。事業所は多様な「食」の楽しみに力を入れている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方・浮腫がある方・嚥下障害の方等、その方の状態を見極め、一人一人の状態に合わせて対応を行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの準備と声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導や声掛けを行っている。	出来るだけトイレでの排泄を大切に、声掛けや誘導をして失敗を減らすよう努めている。そのことによって気分が明るくなり、食欲や発語が増えた利用者もいる。夜間時、転倒やふらつきがある場合は紙パンツやポータブルトイレを使用するなど臨機応変に対応している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や運動を行うことで、便秘の予防に努めている。また必要時は、腹部マッサージを行い、自然排便に繋げている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎朝、健康状態を確認し、本人の希望を重視して一人ずつゆったりと入浴できるよう対応している。また、夜間浴も行っている。	週3回のペースで利用者の好きな時間に入浴できるよう支援している。職員と1対1になれる機会でも会話も弾み、本音など聞けゆっくり入浴している。さらに皮膚などの身体観察にも気を配っている。また地元の温泉に出かける事もあり利用者の楽しみとなっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂けるよう支援している。夜間帯に眠りやすい環境作りをしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の注意事項・副作用等について理解し、薬の変更があった際は申し送りをしっかり行い、職員が熟知できるよう対応している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性を活かし、役割を持ちながら生活し生きがいを持っていただけるよう支援している。季節ごとのイベントや外出・外食を行い、気分転換に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望する所に行けるよう努めている。御家族の方からも協力していただき、家族と一緒に外出する機会を支援している。	日常的に散歩や買い物、床屋などへ、また敷地内のテニスコートで弁当を食べたり、ユニット毎に水族館やバラ園などへドライブに出かけたりして外の空気に触れ気分転換を図っている。冬期間は室内でミニ運動会や作品づくりで手足を動かすよう努めている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない利用者が多いため、お金の管理は職員で行っている。本人の買い物の際は、預かっているお金から支払いをしてもらい、レシートとともに台帳に記入し保管している。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら友人へ手紙を書く方は、一緒に便箋や封筒を買いに行き、職員が投函している。電話は自らがかけることが難しいため、職員が電話をつないで対応している。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように花や観葉植物の鉢を置いたり、利用者が外出した時の写真を貼り、楽しんでいただけるようにしている。利用者の過ごしやすい温度・湿度管理を行っている。また、カーテンで光の調整を行い、不快を感じないようにしている。	ユニット毎に利用者の得意なことを活かした様々な手づくりの作品（わらじ、刺繍の壁飾り）や、また共同で作った壁面飾りなどが掲示してある。写真もたくさん掲示し、行事や日頃の暮らしぶりが伺える。リビングに続く長い廊下は日頃のいい運動スペースで、またソファや椅子が適度な位置に置いてあり、日向ぼっこやテレビを見たりして思い思いに過ごせるよう工夫している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った者同士で話しやすい空間になるよう、共用のスペースにソファを並べて、個別でゆっくり過ごせる場所を確保している。面会者にも利用していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人と家族で相談し、本人の使い慣れた家具やテレビ等を持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	居室は畳とフローリングの2種類用意しており、それぞれ馴染んだ品を持ち込み個性が感じられる設えになっている。夫婦で入居している方もおり、自宅での暮らしそのままの雰囲気で和みのある住まいで過ごしている。掃除は職員と共に行い、清潔の維持に努めている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣場・浴室など入居者の可動域を考え、適宜な場所に手すりを設置しており、自立した生活・事故のない生活が送れるよう工夫しながら支援している。また、移動域に物を置かないよう環境整備を心掛けている。		